

## 編 集 後 記

1996（平成8）年8月20日、札幌市教育文化会館会議室で札幌くらぶは産声を上げました。その設立総会で選出された山科俊郎初代会長は定年間近とは言えまだまだ若々しく、事務局長に選出された上田文雄現会長はバリバリの若手弁護士として活躍中でした。

札幌の唯一の公認のファンクラブとして出発はしましたが、その後は正に暗中模索の連続でした。札幌くらぶ自体、何を目的にいか活動すべきか手探り状態、楽員はどう関わっていけば良いのか戸惑い状態、事務局はどう対応すべきか困惑状態ということで、決してその活動が順調に始まった訳ではありませんでした。

そんな札幌くらぶの活動が軌道に乗り、発展してきたのには3つの段階がありました。一つは、地道に交流会・練習見学会・会報発行の活動を継続する中で楽員が札幌くらぶを自分達の大切な応援団と認知し始まったこと、二つには「札幌くらぶコンサート」を定着させたこと、そして三つには他のファンクラブとの交流から日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JPFC）の結成にまで漕ぎつけたことでした。特に、JPFCは札幌くらぶが提案し設立に漕ぎつけ会長を務めており、今後、一オーケストラのファンクラブにとどまらず、大きく言えば我が国の音楽文化振興に大きな役割を果たしていかなければならないと考えています。今後の札幌くらぶの活動の大きな柱になっていくものと思われま

す。2006（平成18）年、札幌くらぶは創立10周年を迎えました。10年間の活動をふまえ、札幌くらぶビジョンを策定し、札幌楽譜支援金の創設やJOFCの設立などが総会に提案され承認されました。同時に、悪戦苦闘の連続とも言うべき札幌くらぶ10年間の歩みを

記録する記念誌の発行も決定されました。

10周年記念誌というからには、本来は2006（平成18）年に発行すべきものでしたが、結局は3年遅れての発行となってしまいました。その最大の理由は、JOFCの設立などの大きな事業が続き数少ないスタッフでは対応できなかった、ということに尽きます。3名の編集委員が決定してからも、それぞれが仕事を持っており、編集に掛かりきりになるということもできず、編集作業は遅々として進みませんでした。当初は、それでも2008（平成20）年中の発行を目指しましたが、それもかなわず、2009（平成21年）度の総会で「2009（平成21）年秋までの発行を目指す」ということをご了解をいただき、何とか発行するに至りました。

出来栄えについては、皆様の評価をいただくしかありませんが、今はこれでやっとお約束通り会員の皆様のお手元に届けることができる、という安堵感にひたっております。

最後に、編集にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます、編集後記といたします。

2009（平成21）年9月20日

札幌くらぶ10周年記念誌編集委員会  
委員長 佐藤 良次（副会長）  
委員 上田 文雄（会長）  
" 武藤 義典（事務局長）